

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援事業所ジャックの豆の木		
○保護者評価実施期間	2026年5月10日 ～ 2026年5月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	10
○従業者評価実施期間	2026年5月13日 ～ 2026年5月23日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○訪問先施設評価実施期間	2026年5月10日 ～ 2026年5月31日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	13 (回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年6月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所・幼稚園・学校等との連携を重視し、児童が安心して集団生活を送れるよう支援している。	訪問先の先生方と日頃から情報共有を行い、児童の課題や支援方法を確認しながら、一貫した支援を実施している。	関係機関との情報共有やケース会議への参加を積極的に行い、より効果的な連携体制の構築を目指す。
2	保護者との連携を大切にし、家庭・訪問先・事業所が共通理解を持って支援を行っている。	支援後のフィードバックや相談対応を通して、家庭での様子や困りごとを把握し、支援内容へ反映している。	保護者への情報提供や相談機会を充実させ、家庭での支援方法についても継続的な助言を行う。
3	一人ひとりの発達特性や生活環境に合わせた個性の高い支援を実施している。	事前のアセスメントや支援記録を基に、訪問先の環境や児童の状況に応じて柔軟に支援内容を調整している。	支援方法の検証や事例検討を継続し、より専門性の高い個別支援を提供できるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先や保護者との情報共有の頻度に差が生じる場合がある	訪問先の状況や業務の都合により、十分な情報交換の時間を確保できないことがあるため。	連絡方法の工夫や定期的な情報共有の機会を設け、関係機関との連携体制をより強化していく。
2	職員の専門性向上のための研修機会に限りがある。	訪問支援業務との調整が必要となり、外部研修への参加機会が限られることがある。	オンライン研修の活用や事業所内研修を充実させ、継続的なスキルアップを図る。
3	訪問支援の必要性や役割について、関係機関に十分に理解されていない場合がある。	保育所等訪問支援を利用する機会が少なく、制度や支援内容について認知度に差があるため。	関係機関への丁寧な説明や情報提供を行い、支援の目的や役割について理解を深めてもらえるよう努める。